

住民とバイキング給食 函館聾学校

保護者やボランティア、学校運営協議会委員ら地域の人々を招いた「バイキング給食」が、函館聾学校（門真義弘校長）で初めて開かれた。

同校は聴覚障害への理解を広げ



「みんなで食べると、もっとおいしいね」。笑顔で給食を味わう児童・生徒ら

ようと、2023年度から同校の教育活動を支える「ボランティアバンク」をスタート。現在、高校生や大学生を含む40人以上が登録し、手話・指文字など講義を受講後、読み聞かせや部活動支援など、さまざまなサポートを行う。

「バイキング給食」は、同校に携わる人たちに感謝を込め、道南産を中心とする地域素材の給食を一緒に味わおうと企画。15日は同校の幼児・児童・生徒計16人に地域の大人が加わった総勢62人が「函館産プリのシャリアピンソースがけ」「七飯産リンゴのアップルパイ」など全12品からトレイに料理を盛り付けた。

門真校長が「楽しくおいしく食べましょう」とあいさつした後、なごやかに食事がスタート。にぎやかな食卓に「子どもたちは」いつもより食が進んでいます（教頭）と、おいしそうに給食をほおばっていた。

（野長瀬郁実）

※本校の幼児児童生徒数は、14名です。16名は誤りです。